

道徳の時間の目標

1 学習指導要領が示す道徳の時間の目標

学校の教育活動全体で行う道徳教育は、各教科等それぞれの特質に応じて行われ、日常の指導の中では随時の人間関係の指導などの中で進められる。しかし、それらは子どもの生き方にかかわる道徳性やその道徳的価値の全体にわたって指導されるものではない。そこに道徳教育の要としての役割を果たす道徳の時間の意義があり、目標がある。

では、その道徳の時間はどのような目標をもち、学校全体で行う道徳教育の中でどのような方向性と役割をもつのか。まず、そのことを押さえておかななくてはならない。学習指導要領では、道徳の時間の目標について、小・中学校ともに第3章の第1「目標」の後段にほぼ同様の趣旨として次のように記している。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動(小学校のみ)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め(中学校：道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め)、道徳的実践力を育成するものとする。

これらの記述の中には、例えば上記の下線部分が示すように、道徳の時間の在り方を性格付ける重要なキーワードが含まれている。これらが教育活動全体の中での道徳教育の中核的な役割としての道徳の時間の存在意義を支える言葉であるといえる。

2 目標に示される各キーワードの押さえ

ここで、上記のそれぞれのキーワードの趣旨について整理してみよう。このそれぞれについて、「学習指導要領解説・道徳編」によれば、次の角度から理解しておくことが必要である。

ア 計画的、発展的な指導……道徳の時間は1年間、さらには全学年にわたる指導の中で発展的な展開をする必要があり、そのためには見通しのある計画が重要である。教師一人一人の創意ある工夫はもちろん重視しなくてはならないが、個人的な思いから自由に進める時間であるとは言えない。

イ 補充、深化、統合……道徳の時間は、日常の中で考えにくい主題などを補充したり、日常生活や体験で考えたことをより深化させたり、様々な場面で考えたことを自分の中で統合し、さらに新たな考え方を生み出すような役割がある。

この「補充、深化、統合」という言葉は昭和33年の道徳の時間特設以来、変わらない言葉として一貫して位置付けられている。

ウ 道徳的価値の自覚……道徳の時間は子どもが生きる上で大切なことやあこがれについて深く考え自分のものとしていく時間であり、道徳的価値の自覚を図る時間である。この道徳的価値の自覚について、「学習指導要領解説・道徳編」では、次のような3点から整理して解説している。

＜道徳的価値の自覚の3つの側面＞

- 1) 道徳的価値そのものについての理解を深める。同時にその価値理解を通して、人間理解や他者理解を深めていく。
- 2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえ、同時に自己理解を深める。
- 3) 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。

これらは順序を表すものではなく、指導の流れを示すものではないが、道徳の時間の中で、これらが子ども自ら主体的になされるようにしていくことが重要になる。

エ 自己の生き方（小学校）・人間としての生き方（中学校）……道徳の時間は「生き方」について考える学習である。小学校段階では、そのことを「自己の生き方」と表現し、身近な生活や体験も含む生き方の中で、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにしていくことを求めている。また、中学校段階は「道徳的価値の自覚及びそれに基づいた人間としての自覚」と表現されるように、生きる上での道徳的価値の支えの上で生きる意味や自己の存在価値について問い、一人の人間としてどう生きるかについて深く考えることを求めている。

オ 道徳的実践力の育成……道徳的実践力について、「学習指導要領解説・道徳編」（小学校P.30、中学校P.32）には、次のように示している。

＜道徳的実践力とは＞

道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童生徒が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め（中学校：道徳的価値を自覚し、人間としての生き方について深く考え）、将来出会うであろう様々な場面、状況においても道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味している。

いわば、道徳的実践力とは、子どもの道徳的な生き方を可能にする内面的資質であり、道徳的行為を可能にする潜在的なエネルギーであると言える。

なお、この言葉は、道徳の時間の目標用語の中心とも言うべきものであり、端的に言うならば、「道徳の時間は道徳的実践力を育てる時間」であるといえる。

道徳的実践力とは、いわは子どもが自己の生き方を実現していくための心の活力であり、植物に例えるならば、深く張った根っこの力であると言える。

【参考】 文部科学省「学習指導要領解説・道徳編」小学校版（東洋館出版社）、中学校版（日本文教出版）

※ 整理：東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」